

きゅうりの病害(べと病など)の発生に注意 しましょう！

きゅうりの施設栽培で、べと病、炭そ病、褐斑病などの発生が増加しています。発生予察巡回調査(9月19日、富田林市・河南町)において、これら病害の発生が増加しているほ場が確認されました。

8月下旬から9月にかけては、気温変化が大きく、また、降水量が平年よりやや多く、日照時間の少ない曇天の続く日が多い傾向にありました。このため、これら病害発生に適した条件の日が多くなり、発生が増加したと考えられます。

生育初期から中期に、これらの病害にかかると、生育の遅れや収量減少、品質低下につながります。発生初期に、耕種的防除や薬剤散布を行うなど、防除に努めましょう。

<きゅうり病害の発生状況 >

各調査地での平均発病葉率(9月19日) 単位:%

	べと病	炭そ病・褐斑病
富田林市	24.0	2.0
河南町	92.0	52.0

きゅうりのべと病、炭そ病、褐斑病の見分け方

	べと病	炭そ病	褐斑病
病徴	葉に発生。始め淡黄色で境界が不明確な小斑点。後に、拡大して淡褐色に変わり、葉脈に区切られた多角形で黄褐色病斑となる。古くなると	葉、茎、果実に発生。葉では始め黄色の丸い病斑ができ、拡大して円形となる。周縁は褐色、内部は淡色で、同心輪紋を生じることもある。古くなると病斑は破れやすく、中央部に黒い小	主に、葉に発生。始め黄褐色で、ハロー(黄色いふちどり)を伴ったごま粒程度の斑点ができる。拡大すると、内部は淡褐色～灰褐色で、不整形な同心輪紋を生じる。施設栽培、特に、ブルームレス

黄褐色～灰白色になる	さな粒が現れる。露地栽培で多い。	台木の接ぎ木きゅうりで発生しやすい。
------------	------------------	--------------------

* 発生初期は、これら病害の区別は難しいので、それぞれに登録のある薬剤を選んで、輪番に散布する。



ベと病



炭そ病



褐斑病

<防除対策>

(耕種的防除)

- ・ハウス内の換気を行い、排水を良くするなど過湿を避ける。
- ・被害葉は速やかに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・窒素過多、肥切れにならないよう適切な肥培管理を行う。

(薬剤による防除)

- ・予防散布に重点をおく。
- ・発生を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。

<登録薬剤:きゅうり(べと病・炭そ病・褐斑病)>

◎予防的散布剤

農薬名	べと病	炭そ病	褐斑病
ジマンダイセン水和剤 * 1 ペ ンコセブ水和剤 * 1	600～800 倍 前日/3 回	600 倍 前日/3 回	600 倍 前日/3 回
ベルコート水和剤	—	2,000～4,000 倍 前日/5 回	2,000 倍 前日/5 回
タコニール 1000 * 2	1,000 倍 前日/8 回	1,000 倍 前日/8 回	1,000 倍 前日/8 回
ランマンフロアブル * 3	1,000～2,000 倍 前日/4 回	—	—
トーシャスフロアブル * 4	1,000 倍 前日/4 回	1,000 倍 前日/4 回	1,000 倍 前日/4 回

- * 1 マンゼブを含む農薬の総使用回数は3回以内
- * 2 TPNを含む農薬の総使用回数は10回以内(土壌かん注は2回以内、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回以内)
- * 3 シアゾファミトを含む農薬の総使用回数は4回以内
- * 4 シアゾファミトを含む農薬の総使用回数は4回以内、TPNを含む農薬の総使用回数は10回以内(土壌かん注は2回以内、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回以内)

◎主として治療効果が期待できる剤

農薬名	べと病	炭そ病	褐斑病
リトミルコールトMZ*5	1,000倍 前日/3回	—	—
アミスター20フロアブル(注1)	1,500~2,000倍 前日/4回	2,000倍 前日/4回	2,000倍 前日/4回
ゲッター水和剤*6	—	1,500倍 前日/5回	1,500倍 前日/5回
ホライズントライフフロアブル*7 (注1)	2,500倍 前日/3回	—	—
ライメイフロアブル	2,000~4,000倍 前日/4回	—	—
プロホース顆粒水和剤*8	1,000~1,500倍 前日/3回	—	1,000倍 前日/3回

(注1)QoI剤(アミスター、ホライズンなど)は、特に薬剤耐性菌が生じやすいので、使用は1作1回に留めることが望ましい。

- * 5 マンゼブを含む農薬の総使用回数は3回以内、メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数は4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)
- * 6 シエトフェンカルブを含む農薬の総使用回数は5回以内、チオファネ

ートメチルを含む農薬の総使用回数は6回以内(種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)

*7 シモキサニルを含む農薬の総使用回数は3回以内、ファモキサトンを
含む農薬の総使用回数は3回以内

*8 ヘンチアハハリカルブ イソフ° ロヒ° ルを含む農薬の総使用回数は3
回以内、TPNを含む農薬の総使用回数は10回以内(土壌かん注は2回以
内、散布及びくん煙及びエアゾール剤の噴射は合計8回以内)

◎防除薬剤については、

●Web 版大阪府病虫害防除指針(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報検索システム
(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>)

で確認してください。